

# 平成30年度 新潟県少年の主張大会

村上・岩船地区大会

## 石塚 咲衣

最優秀賞

村上中等教育学校3年生



### 贈り合う未来

皆さんは、毎日の給食や食事を残していませんか？

世界には、貧しさや飢え、つらい労働に苦しんでいる子どもたちがいることをご存じでしょうか。たくさんのお金を持っている人はますます贅沢な暮らしができ、お金を持っている人はいない人は一層苦しい生活を強いられる。残念ながら、これが現代社会の現実になりつつあります。最近では、途上国の貧困だけでなく、先進国で経済格差が広がっていることも問題になっていきます。「世界で一年に生み出された富の82%がわずか1%の富豪に集まっている」という調査結果が出ており、貧困層が増え、民主主義の担い手である中間層が減少していることが分かります。私たちはこの現状を諦めるしかないのでしょうか。いえ、私は、私たちの考え方や行動次第で変えられると考えます。



手をこのよう

なOKの形にして、思いつくのはどのようなことでしょうか。実はこれは、貧困による栄養失調に苦しむ赤ちゃんの二の腕の太さなのです。信じられないかもしれませんが、それは紛れもない事実であり、地球に生きる同じ人間として、目を背けることは許されないと思っています。

では、私たち中学生のように、お金がない場合にはどう協力したら良いのでしょうか。そこで私が見つけたのは、いわば「お金のかわらない寄付」です。例えば、書き損じはがきを250枚集めれば、タイで一人の子どもが一年間学校に通えるお金になります。こういった国では、少しの金額でも、地域の変化や経済の発展に大きく寄与できるのです。また、使わなくなったランドセルの中に文房具を入れ、送る取り組みもなされてきました。運送費用1800円は、なんと、書き損じはがき約40枚で代用できるのです。普通なら捨ててしまうような物でも、このこ

とを知っているか、そして知ろうとしているか。大きく違います。ゴミになるか人のためになるか、どちらが良いかは分かりきっています。私たち一人一人に出来ることはたくさんあります。では、なぜ私たちはそれをせずに生きてきたのか。私は、一人一人の興味、関心と認識のあり方に問題があると考えます。「遠い外国の話だから、自分のことじゃないから」と、他人事と捉えて目を背けてはいませんか。または、お金で動かされているこの社会の勝ち組になろうと、自分のことで精一杯になっってしまったのでしょうか。日本でも貧しい家庭の子どもが、より良い教育環境や暮らしを求める希望を失う傾向にあることが問題になっていきます。格差は広がっているのです。そこで、途上国と先進国の貧困をともに私たちの視野に入れることが大切になってきます。是正を諦めれば経済格差は一層開き、いつか世界を壊します。

そして私が支援において焦点を当てるべきだと思うのは、教育です。もちろん、そのためには食料や健康面での援助が前提となりますが、貧しい子どもたちに教育の支援をすることは、その子たちだけでなく、世界の状況にも良い影響を及ぼすと考えます。支援によって教育を受けら

れる子どもたちが増えれば、その子たちが将来援助や格差解消のために行動し、それは私たちにも返ってくる。そして世界は良い方向へと変わっていく・・・という幸せを贈り合うすばらしい循環ができるはずですよ。ユネスコの取り組みによって41歳にして読み書きができるようになった女性は、このことをきっかけに女性の権利を守るために行動するようになりました。これからの私たちに必要なのは、一方的に与えるという考えを取り払い、共に手を取り合っ

て問題に立ち向かっていこうとする姿勢です。諦めてはいけません。方法はあります。たとえ自分は今困っていないなくても、未来の彼らと私たちのために、心を奮い立たせましょう。まず、今こうしている間にも苦しんでいる子どもたちがいるという事から目を背けず、一人一人、できることから始めましょう。諦めず行動することで、未来をプレゼントし合っすてきな世界を、みんなで築こうではありませんか。



田村 優良



優秀賞  
平林中学校3年生

ここにしか咲かない花

今年度で閉校する平中。自分たち運命的に巡ってきた母校との「お別れ」が、自分に大切なことを気付かせてくれた。

平間 沙哉



優秀賞  
村上第一中学校3年生

ロボットと戦う

将来、人は職業をロボットと争うことになる。ロボットにはない高いコミュニケーション能力の必要性を意識して自分を高めていきたい。

高橋 咲紗

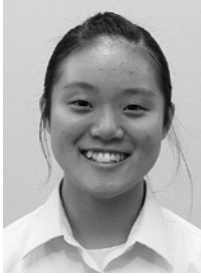


奨励賞  
村上東中学校3年生

スイスとの違いから考える日本

スイス在住の父から聞いた話からスイスと日本を比較し、お互いのいいところを学び合いながら、日本の未来に活かしたい。

横田 侑果



奨励賞  
岩船中学校2年生

言葉でつなぐ家族の絆

家族に起きた出来事を通して、言葉の大切さに気付いた。いつ何が起きるか分からないから、家族に対して感謝を伝える機会を多くしたい。

松田 琉奈

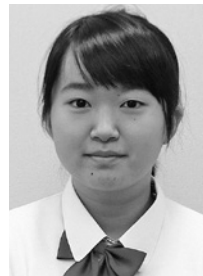


奨励賞  
荒川中学校3年生

影のヒーロー

ニュースやワイドショーの事件報道に疑問を感じた。情報の善悪を見抜く力を持たなければと考える。

高橋 秀美



奨励賞  
神納中学校2年生

本場の挑戦

卓球部でのアドバイスをきっかけに、学びと努力の大切さや、それらをバランスよく身につけることが本場の挑戦だと実感した。

小池 柁生



奨励賞  
朝日中学校3年生

「飢餓ゼロ」の世界を願って

食糧不足で苦しむ人々が、世界にたくさんいることを知った。食べ物を残していた自分を恥じ、「飢餓ゼロ」を願う。

富樫 結奈



奨励賞  
山北中学校3年生

「ありがとう」を伝える大切さ

祖母との良好な関係が、自分の思い込みや気安さから疎遠になってしまった。祖母の死で感謝を伝えられなかったことが悔やまれる。

市外(岩船郡)の代表で脇川治起さん(粟島浦中学校3年生)と、小田想悟さん(関川中学校3年生)が奨励賞を受賞しました。

平成30年度新潟県少年の主張大会

張大会くわたしの主張(村上・岩船地区大会が、8月18日(土)に教育情報センターで開催されました。

郡市内各中学校・中等教育学校の代表11人が、日常生活を送る中で感じたことや考え、感銘を受けた経験を通して自分の主張を堂々と発表。審査時間中のアトラクションでは、朝日中学校の吹奏楽部が、すばらしい演奏を披露してくれました。

審査委員長を務めた鈴木正美さん(村上市岩船郡校長会会長)は「例年になくバラエティに富んだ内容でした。立派に自分の未来を切り開いていこうという強い姿勢や決意を感じられ、私たち大人も学ぶべきことが多い内容でした」と講評。

最優秀賞に選ばれた石塚咲衣さんは、9月22日(土)に新潟市南区で開催された新潟県大会に、村上・岩船地区の代表として出場しました。

全員の主張は、新潟県のホームページに掲載しています。

●問い合わせ  
村上地域振興局健康福祉部(村上保健所内) ☎53・8361